JA秋田厚生連
大曲厚生医療センター

大曲厚生医療センターだより

2019.3
Vol.30
平成31年３月27日 発行

〒014-0027　秋田県大仙市大曲通町 8-65　秋田県厚生農業協同組合連合会 大曲厚生医療センター
TEL 0187-63-2111　FAX 0187-63-5406　URL http://www.okmc.jp　E-mail info@okmc.jp　発行責任者／中川拓

副院長（小児科）

ごあいさつ

五十嵐　希世志

私が平成２年４月大曲厚生医療センターの前身の仙北組合総合病院に赴任してから20数年、早いものでもう平成の世も終わりつつあります。小児科医として継続して仕事をしてきて、世の流れ、患者、家族の考え方の変化もさることながら、最近一部の身近な病気の概念も大きく変わりつつあると痛感しています。専門外の分野とかぶりますが、その話を少ししてみようとおもいます。それは乳幼児のスキンケアの問題と食事アレルギーの関係です。

本来皮膚科の先生だけに任せておけばよいのかもしれませんが乳幼児を連れた家族は、最初は小児科を受診することが多いので、小児科医が湿疹用に軟膏を処方する機会は多いと思います。その分小児科医が乳幼児の皮膚の状態の変化にも詳しいかというと、そうでもありません。通常は一過性で治りやすいし、ややひどい場合も弱いステロイド入りの軟膏でよくなるのがほとんどだからです。

一般に子供の皮膚は、生後１,２か月は皮脂の分泌が高まり、黄色いかさぶたのようなものができる脂漏性湿疹が増えますが、その後、３か月くらいから皮脂の分泌が下がって乾燥しやすくなり、些細な刺激で炎症を起こしやすくなり、それが思春期まで続きます。

軽傷の場合は同じ弱い軟膏ですむのですが、中には長期化する例もあります。長期化するとアトピー性皮膚炎に移行することも多く（最近では湿疹との区別はしないそうです）この病名が有名になってから、かなりの混乱を引き起こしました。それは1992年のニュースステーションで「ステロイドは悪魔の薬」と、軟膏と全身投与を一緒にしたようなバッシングをしたのが直接の原因と言われています。それまでは特に問題もなく処方していたのに、その放送後「ステロイド無しの軟膏にしてください！」という要望がかなり多くなりました。もともと小児科で出している軟膏は弱いものが多いのに、もっと弱くなると当然効果はもっと無くなります。そうなると一部の症状のひどい子供は顔から首の回りにかけて、真っ赤な炎症を起こしたままになり、それでもあまり機嫌は悪くならないので、そのまま放置されるか、ほとんど効かない軟膏を継続して塗ることになります。その結果なかなかよくならないアトピーの患者が増え、その原因の一部が食物にあることから、何とかよくするためにアレルギーの原因を知りたい、皮膚科の先生はあまり調べてくれないから小児科で採血して検査をしてほしいという流れになってしまいました。そして、採血の結果、反応の出ている食物を禁止して子供に食事制限をする例も増えてきました。

本来検査結果と症状は一致しないものなのに制限を続けて栄養状態を悪化させ、治療の軟膏は効き目が弱いので治らないだけなのに、制限が足りないから良くならないのだと勘違いする例も増えました。またアレルギーは体質が関係するので妊娠中から自分の食事を制限し、生まれてくる子供のアレルギーを予防しようとする人も出てきました。残念ながら親が食事制限しても児のアレルギー発生頻度ほとんど変わりません。生まれた後に自分の食事を制限して母乳を与えても同様に効果はありません。20世紀末はこのようにかなり混乱した時代だったと思います。

ところが21世紀になってから、食物アレルギーに対する考え方が大きく変わりました。食物アレルギーはアトピー性皮膚炎の原因ではなく結果というのが最近の考え方です。2008年にイギリスの小児科医が明らかにしたことですが、赤ちゃんの皮膚に湿疹があるとそこから家のほこりやごみに含まれる食物抗原が侵入して、この経皮感作によって作られた抗体が離乳食などに含まれる特定の食材に反応してアレルギー反応をおこすのです。腸管は異物への反応を制御する制御性T細胞があり、口から入ってきた食べものを柔軟に取り込む免疫寛容のシステムが発達していますが、皮膚は本来異物が入ってくるはずのない場所なのでわずかな異物を感知するシステムがあり、その異物を排除しようとしてアレルギー反応が起こるわけです。

結論として、根拠なくステロイド軟膏を忌避すると湿疹が持続し、経皮感作が進行します。そして食物が原因とされ厳格な食事制限をした場合は経口免疫寛容が進まないので食物アレルギーを悪化させることになります。そうならないためには乳児期に湿疹が見られた場合はとにかく早くステロイド軟膏を含めたスキンケアを行い経皮感作防ぐことです。

すべての食物アレルギーを予防することは出来ませんが、卵、牛乳、小麦の３大アレルギーを予防できる可能性は高いと言われていますので、まず皮膚の状態を正常に戻して、そのうえで保湿をしっかり行い、良い状態を保ち続けることが重要です。

ただし乳幼児の食物アレルギーは湿疹などの皮膚症状が主ですが、年齢を重ねるうちに、一部はさらに重篤な全身症状を起こすこともあるので、正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去が重要になります。その場合は（残念ながら当院小児科にはおりませんが）、小児アレルギー専門医に相談してください。

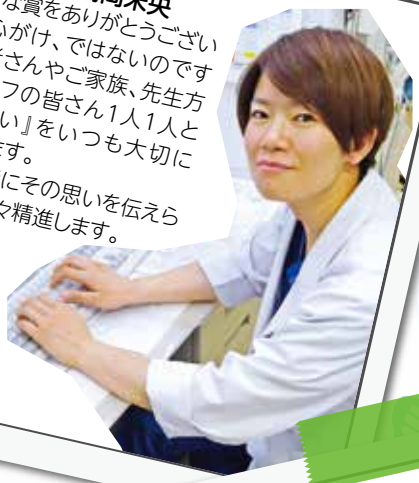
平成30年度

接遇優秀職員紹介

大曲厚生医療センターでは、患者さんはじめ地域住民の皆さまへの「接遇」（ホスピタリティー）を重要項目と位置づけ、「利用者満足度アンケート」「接遇研修会」「接遇優秀職員の表彰」などの取組みを行い、接遇の向上に日々取り組んでおります。
今回は、職員による投票で選ばれた5名の接遇優秀職員をご紹介します。

消化器科医師 鶴岡未央

素敵な賞をありがとうございます。心がけ、ではないのですが、患者さんやご家族、先生方やスタッフの皆さん1人1人との『出逢い』をいつも大切に思っています。
これを機にその思いを伝えられるよう日々精進します。



コンシェルジュ(総合案内)
佐藤あすか

常に患者様やご家族様のお気持ちに寄り添い、目配り、気配り、心配りと笑顔で接するよう心掛けております。
今後は医療コンシェルジュとしてもっと勉強を重ね、更なる接遇力の向上と医療の知識も広げていきたいと思います。

4階西病棟助産師
小松田ユカ

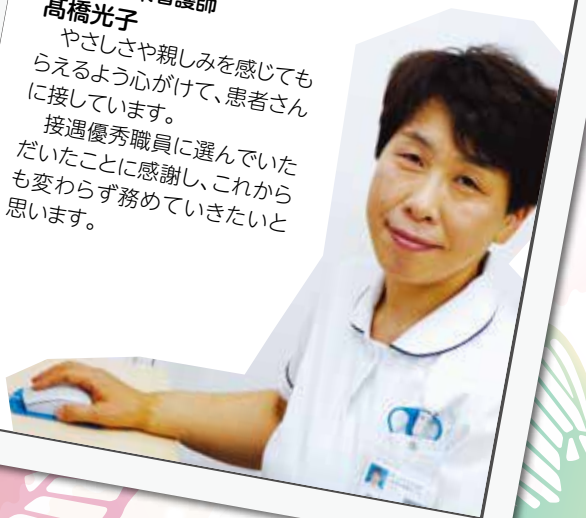
意識していることは、自分の周りにいる先輩･後輩の素敵な接遇を見習うことです。相手の方が何を感じているか想像することも多いです。想像しすぎて、もはや「妄想」の域に達しているかも…です。

4階西病棟助産師
川本悦子

いつでもどこでも誰にでも笑顔で接し、相手に伝わる言葉使いを心がけています。
定年の年に接遇が良いと褒めていただき、長年勤めたご褒美かなと嬉しさでいっぱいです。ありがとうございました。

皮膚科外来看護師
髙橋光子

やさしさや親しみを感じてもらえるよう心がけて、患者さんに接しています。
接遇優秀職員に選んでいただいたことに感謝し、これからも変わらず務めていきたいと思います。



こんにちは 入退院支援室です

入退院支援室　看護師長
冨樫　優美子

みなさまこんにちは。大曲厚生医療センターの入退院支援室です。どうぞよろしくお願いいたします。入退院支援という言葉を初めて聞いた、入退院支援室ってどこにあるの？何をするの？と思われる方もいらっしゃるのではないでしょうか。今日は入退院支援室を紹介させていただきます。

入退院支援室は、平成29年7月に1階の地域医療連携室や仙北訪問看護ステーション同室内に、入退院支援看護師1名と入退院支援社会福祉士2名が配置となりスタートしました。平成30年8月には、入退院支援看護師が4名増員となり現在7名で業務を行っています。主な業務内容は、各入院階に入退院支援看護師1名が常駐し、入院病棟の看護師と協働で入院後できるだけ早期に退院を困難にする要因を確認し、必要に応じて患者さまやご家族と面談を行い、情報収集や状態を把握し不安や心配事を伺うとともに、退院に関すること（希望する退院後の療養先）などの確認させていただきます。さらに、患者さまやご家族が不安なく退院後の療養生活が送れるように、院内の各専門職、地域の医療・福祉関係者のみなさまと連携を図りながら、在宅復帰される方のサポートや様々な理由により在宅生活が困難な方への、転院や施設入所支援などを行っています。

地域包括ケアシステムの「植木鉢」

入院すると必ず退院の日は訪れます。「えっ？入院してすぐ退院の話しですか？」と違和感を持たれるかもしれませんが、国の進める地域包括ケアシステムでは、ご本人の選択とご本人・ご家族の心構えを持つことが大前提であり何より大切であるとされています。また、介護保険認定や福祉サービス利用を希望された場合には、利用できるまでに時間がかかることもあります。入退院支援室では、入院早期よりご本人やご家族と退院後の過ごし方などについて話し合い、住み慣れた地域で安心して暮らせるように努めてまいります。

今後とも、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

れんけい室タイムズ

FACE TO FACE Vol.24

▲ 研修会風景

室長あいさつ

副院長（外科）
小野　文徳

昨年11月に行われた毎年恒例の「れんけいのつどい」は、今回もたくさんの方々に出席していただき、実りある会となりました。厚く御礼申し上げます。顔も見えず声も聞こえない紙面だけのやり取りだと、ちょっとした誤解やすれ違いが生じてしまいがちですが、直接会ってお話することによってこのような問題は解消してしまうことをよく経験します。

密接で良好な連携のためにも、来年度以降も皆様のご出席をお待ちしております。

第15回れんけいのつどい

平成30年11月7日（水）グランドパレス川端において「第15回れんけいのつどい」が行われました。

研修会149名、懇親会115名と、今年も院内外の先生方、職員の皆様に多数参加していただきました。研修会は、「泌尿器科手術におけるレーザーの役割」というテーマで、泌尿器科　科長　熊澤先生から講演していただきました。懇親会では、さらなる親睦を深めることができたと思います。お忙しい中、ありがとうございました。

また、２月からは「あきたハートフルネット」が稼働していますので、多くの医療機関から参加していただき、紹介・逆紹介において有効な情報活用に役立てることができ、病診連携の強化ができるようにしていきたいと思います。

▲ 懇親会風景

▲三浦　雅人 院長　挨拶

▲泌尿器科科長　熊澤　光明 先生　講演

▲仙北市西明寺診療所
院長　市川　晋一 先生

▲大曲仙北医師会
会長　池田　芳信 先生

▲大曲仙北医師会
副会長　三浦　俊一 先生

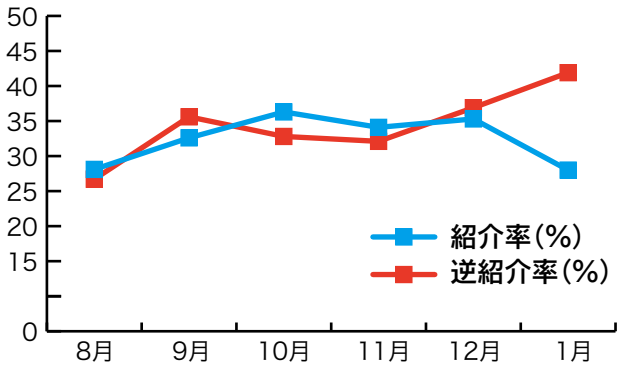
▲仁村　隆 副院長　挨拶

実績報告

当院では、「かかりつけ医」の先生方と連携をとりご紹介いただいた患者さんの症状に合わせ適切な治療を行います。安定すれば「かかりつけ医」で引き続き診療を行っていただいております。

紹介率・逆紹介率推移
平成30年8月～平成31年1月

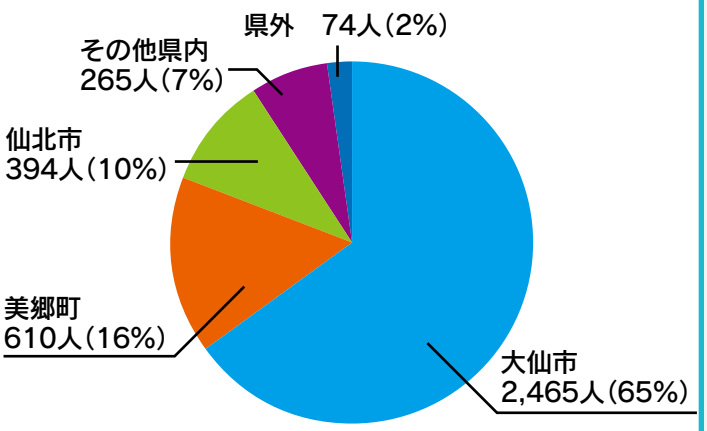
平成30年8月～平成31年1月までの平均の紹介率32.4%、逆紹介率34.3%でした。



	8月	9月	10月	11月	12月	1月
紹介率(%)	28.1	32.6	36.3	34.1	35.3	28.0
逆紹介率(%)	26.7	35.6	32.8	32.1	36.9	41.9

地区別紹介患者数
平成30年8月～平成31年1月

地区別紹介患者数は、総数3,808人となり、内訳は大仙市2,465人、美郷町610人、仙北市394人、その他県内265人、県外74人でした。



ためになる話 塗り薬について

1. 軟膏やクリームの使い方

軟膏やクリームは塗り方によっても効果に差がでることがあります。スキンケアに使用する保湿剤は、入浴後５分以内に塗るのが効果的と言われています。塗り残しがないように指先ではなく手のひらで塗ってください。この時、身体のしわの方向に沿って塗ると皮膚全体に広がりやすくなります。これに対して筋肉痛に使用する消炎鎮痛剤では擦り込むように塗ります。ただし、あまりゴシゴシと強く擦り込むと皮膚にダメージを与えてしまうので、優しく繰り返し塗り込むようにして下さい。塗る前には手をきれいに洗い、塗り終わった後の指先は拭く、洗うなどして薬剤が残らないようにしましょう。

また、軟膏の場合は大人の人差し指の一番先から第1関節に乗る量、ローションの場合は1円玉大の量で、大人の手のひら2枚分くらいの面積に塗ることができます。使用量の目安にしてみてください。

2. 使う順番について

一般に塗る面積の広い方から先に塗ります。ステロイド外用剤と保湿剤の併用では塗る面積の広い保湿剤から先に塗り、後からステロイド外用剤を湿疹の部分だけに塗ります。先にステロイド外用剤を塗ってから、保湿剤を塗るとステロイド外用剤が塗る必要のない部分まで広がることで、副作用が起きる可能性があります。軟膏やクリーム、病気などによっては順序が異なることもあるので医師から指示がある場合は説明された順序を守って塗って下さい。

3. 保管方法について

軟膏やクリームは長期間使用可能ですが、正しく保存しないと使用期限まで使用できないことがあります。軟膏やクリームの保存温度は大部分が『室温保存』ですが、夏場などは直射日光や車の中は避け、涼しい場所に保存するようにしましょう。軟膏やクリームは薬局などでもらう場合、必ず薬の袋などに使用方法以外にも保存方法が書いてあるので、きちんと読んで正しく保存して下さい。

外来診療担当医一覧

平成 31 年３月１日現在

診療科	月	火	水	木	金	受付時間等
内科 (血液・腎)	仁村　隆	秋田大学	仁村　隆	茂木　睦仁	仁村　隆	8:30~11:00 糖尿病外来予約制 (火・木・金)
	長谷川　諒	茂木　睦仁	井上　武	腎臓病外来 小澤　政豊	長谷川　諒	
	腎臓病外来 小澤　政豊		秋田大学	腎臓病外来 小松田　敦		
		糖尿病外来 大友瞳・岩村庄吾 (隔週交互の診察)		糖尿病外来 大友　瞳	糖尿病外来 岩村　庄吾	
内　科 (循環器)	岩川　英弘	高橋陽一郎	根本　敏史	高橋陽一郎	秋田大学	新患診療 8:30~11:00
			ペースメーカー外来 (高橋陽一郎)			
		呼吸器・アレルギー (秋田大学)			呼吸器・アレルギー (秋田大学)	火 13:00から　予約制 金 11:00まで　予約制
			心臓血管外科 (秋田大学)			予約制 8:30~11:00
内　科 (消化器)	沖口　将夫	三浦　雅人	小野地研吾	沖口　将夫	肝外来　三浦　雅人	8:30~11:00
	小野地研吾	沖口　将夫	鶴岡　未央	堀井　享	堀井　享	
				小野地研吾	☆菅原正伯	☆神経内科　完全予約制
小児科	五十嵐希世志	小山　勝幸	五十嵐希世志	吉田秀一郎	小山　勝幸	8:30~11:00
	大村　映子	大村　映子	小山　勝幸	大村　映子	大村　映子	
	小山　勝幸	吉田秀一郎(予約のみ)		☆神経外来　矢野珠巨		☆8:30~11:00　予約制
					☆心臓外来　秋田大学	☆第1･3(金) 予約制13:30~
外　科	小野　文徳	荒木　孝明	柏木　良介 佐藤　将大	小村　俊博	谷口　肇	8:30~11:00 (木) 腫瘍内科 (秋田大学)
呼吸器外科	中川　拓		中川　拓		中川　拓	8:30~11:00
	髙嶋祉之具		髙嶋祉之具		髙嶋祉之具	
	鈴木　陽香		鈴木　陽香		鈴木　陽香	
泌尿器科	熊澤　光明	神崎　正俊	熊澤　光明	熊澤　光明	神崎正俊・灘岡純一 (隔週交互の診察)	8:30~11:00
	関根　悠哉	灘岡　純一	灘岡　純一	神崎　正俊	関根　悠哉	
産婦人科 (婦科)	山本　博毅	長尾　大輔	高橋　玄徳	山本　博毅	長尾　大輔	8:30~11:00
産婦人科 (産科)	長尾　大輔	高橋　玄徳	長尾　大輔	高橋　玄徳	山本　博毅	
耳鼻咽喉科	垂石　羊司	垂石　羊司	垂石羊司／佐藤輝幸	垂石　羊司	応援医師	8:30~11:00
	佐藤　輝幸	佐藤　輝幸	応援医師	佐藤　輝幸		
整形外科	古口昌志(10:30まで) 松本　周(10:30から)	佐藤　心一	佐藤　心一	古口　昌志	佐藤　心一	8:30~11:00
	三宅　公太	佐藤　宏陽	三宅　公太	三宅　公太	松本　周	
	魚住　弘明	古山　和樹	魚住　弘明	佐藤宏陽（10:30まで） 古山和樹（10:30から）	魚住　弘明	
皮膚科	石河　軌久	石河　軌久	石河　軌久	秋田大学	石河　軌久	8:30~11:00 (火・金) 予約制
脳神経外科	大前　智也	柳澤　俊晴	柳澤　俊晴	大前　智也	大石　渉(第1・3) 工藤絵里奈(第2・4・5)	8:30~11:00
	柳澤　俊晴	工藤絵里奈	大前　智也	柳澤　俊晴	大前　智也	8:30~10:00
緩和ケア科	秋山　博実		秋山　博実	秋山　博実		完全予約制
眼　科	髙橋　永幸	秋田大学	髙橋　永幸		髙橋　永幸	8:30~11:00(火)予約制
放射線科		安倍　明			安倍　明	9:00~11:00
歯科口腔外科	鈴木　靖子	鈴木　靖子	鈴木　靖子	鈴木　靖子	鈴木　靖子	完全予約制 初診の方は紹介状持参 急患は必ず電話連絡必要 (木)急患受付いたしません
	桑島　精一	桑島　精一	桑島　精一	桑島精一(10:30まで)	桑島　精一	

※土・日曜日と祝祭日は全科休診です